

(様式)

令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立自由が丘中学校
-----	-------------

1 学校教育目標

自立・貢献 ～自己有用感を高める教育の推進～

2 本年度の重点目標

(1) 目標に向かって最大限努力し自己実現をめざす生徒の育成 : 自己有用感を高める教育の推進
(2) 心豊かで命を大切にす生徒の育成 : 道徳教育・人権教育・安全教育・防災教育等の充実
(3) 教職員の指導力・資質の向上 : わかる授業の実践、規律あるあたたかい学級づくり、人間性・社会性の向上
(4) 地域から愛され信頼される学校 : 地域との連携、学校からの情報発信

3 自己評価結果(達成状況) 【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	①未来を創る学力育成三木モデルの目指す授業づくり(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実) ②基礎・基本の定着を図る指導の充実 ③タブレットを活用した学習習慣の確立	①教職員全員参加の校内研修会を2回実施した。1回目は、英語科、2回目は、実技教科の音楽科で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について研修を深めた。 ②③6時間目終了後に実施している「学習タイム」では、タブレットを活用したドリルで基礎基本の定着を図った。	B	①「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた授業改善研修の推進 ②③基礎・基本の定着、学習習慣の確立をめざしたA1ドリルの積極的活用 ③授業のオンライン配信の継続実施
生徒指導	①生徒理解に基づいた指導の充実 ②不登校・要支援生徒への指導の充実(三木市不登校対策アクションプランの実践) ③サポート教室の効果的運営 ④生徒指導及び不登校対策委員会の定例開催 ⑤生徒会活動と連携した取組の充実	①②③SSW・SC、学校生活支援員と連携を図り、生徒理解に基づいた寄り添う指導を行った。ケース会議を実施し、個に応じた組織的な対応につとめた。 ④生徒指導(火3)、不登校(金3)委員会を定例で開催し、対応協議、情報を共有し指導を行った。 ⑤生徒会と連携し、校則の見直しにとりかかった。	B	①開発的生徒指導の推進 ②SSW・SC、関係機関と連携し、生徒理解に基づいた寄り添う指導の継続実施 ③④サポート教室の運営方法と情報共有の方法の改善 ⑤生徒会活動と連携した校則等の見直しの継続
安全教育 防災教育	①安全教育の充実 ②感染症対策の徹底 ③防災教育(防災訓練・研修会)の推進 ④危機管理研修による対応力の向上	①②日々の感染症対策に加え、感染が判明した際には市教委・校医・PTA会長とも連携を図り、迅速に学級閉鎖、学年閉鎖等の措置をとった。 ③④防災訓練・教職員の初動体制確立訓練、保護者への引き渡し訓練を実施した。AED・心肺蘇生、熱中症、食物アレルギー等の職員研修を実施し、意識の対応力を図った。	A	①②③今後の感染症対策の変更、社会情勢の変化に応じた柔軟な対応強化 ④教職員の指導力・対応能力の向上を図るための危機管理研修を継続実施
道徳教育 人権教育	①道徳教育の充実 ②年間指導計画に基づいた指導の徹底 ③新たな人権課題への取組の充実 ④職員研修・授業研究会の実施	①④12月に指導力の向上をめざし、講師招聘公開授業、授業研究会を実施した。 ②年間指導計画に基づいた指導を行った。 ③ジェンダー教育をはじめ様々な人権課題に前向きに取り組む、人権を大切に取組を行った。	B	①④指導力の向上をめざした道徳の授業研究会の継続実施 ①ローテーション道徳の継続実施 ②指導計画に基づいた指導と授業時数の確保 ③新たな人権課題に関する研修の推進
特別支援教育	①支援を要する生徒の理解と指導の充実 ②学校生活支援教員・SC・SSWとの連携強化 ③幼小中連携による職員研修の実施	①②定期的な特別支援教育委員会を開催すると同時に、職員会議でも情報を共有し、指導の充実に生かした。学校生活支援教員の支援は非常に大きい。 ③今年度より、小中連携教育から小中一貫教育へとシフトチェンジする中で、小中3校の担当全員で情報の共有、今後に必要なことについて研修した。	B	①②学校生活支援教員や特別支援教育指導補助員と連携を深め、個に応じた必要かつ効果的な支援を継続実施 ①校内委員会を定期開催し、支援内容や体制の見直しを行い共通理解を図った取組を推進 ③小中の情報共有の方法改善
家庭・地域との連携	①通信や情報機器を活用した情報発信 ②感染症対策を踏まえた学校公開の工夫 ③コロナ禍における地域との連携の工夫	①ホームページの更新回数が減少しており、改善課題である。トライやる関連で、チラシを作成し、事業所募集の情報発信を実施する。すぐるは効果的に活用できた。 ②感染症対策を講じながら、行事への保護者参観を実施することができた。	B	①ホームページや各種通信等の発行による情報発信の方法改善とすぐるの効果的活用の継続 ②③感染症対策を踏まえた学校行事の開催や生徒の地域行事への参加方法の検討・改善
教職員の育成	①教職員による自主研修会の実施 ②職員の能力を発揮させる職場環境づくり ③OJTを活用した実践的指導力の向上 ④小中一貫教育推進に向けた教職員の交流	①②自主的な研修会は実施することができなかった。研修会の企画、実施は課題である。 ④従来の小中連携教育からシフトチェンジし、小中一貫教育の推進に向け、夏季休業中に小中3校の全教職員を対象にした研修会を実施し、その後分科会にて各担当の情報交換を行った。	B	①未来を創る学力育成三木モデルの目指す授業改善研修会の実施 ②③④自校だけでなく小中の教員間でも意見交流が活発に行われるなど、教職員が刺激し合い切磋琢磨しながら指導力の向上を図る職場環境づくり

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み内容と達成状況および改善の方策の関連がとて分かりやすい。(達成状況からも先生方の努力が見受けられる。) ・学校評価も概ね目標を達成できている。 ・項目が細かく分類されており、問題ないと思います。 ・目標も細かく掲げてあり、適切である。 ・今年度も、各イベントを地域からの参加ができず残念である。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>学習指導 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着とタブレットの活用で基礎学力向上に努力している。 ・A1ドリルの活用は、授業進度についていけない生徒にとっては良い。個別最適な学び・協働的な学びを更に推進することを望む。
<p>生徒指導 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に関心があり、寄り添う指導が行えている。また、不登校生徒や要支援生徒に対してもケース会議を行うなど、組織的に行動している。 ・不登校生徒の対応にかなりの時間を費やしていることが分かった。また、生徒指導委員会と不登校担当者会を定期的に行っていることは良い。学校の取り組みを保護者へ発信すれば良いと思う。
<p>安全教育・防災教育 評価は「A」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康への配慮・対応は満足するものである。防災や各種訓練等の実施により危機管理能力の向上が図られている。 ・コロナ感染症対策はベストだと思う。コロナ禍にあっても体育祭、文化祭、オープンスクール実施の判断は正しかったと思う。
<p>道徳教育・人権教育 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーを含んだ人権教育が実施されており良いと思う。 ・多様性を認めるのはグローバルスタンダードである。本校が地域のリーダーとなり、様々な改革を実行して欲しい。「B」評価は妥当と思う。 ・人権意見発表会での生徒たちの発表はどれも心動かされる作文ばかりで、日々の道徳教育の結果だと思う。
<p>特別支援教育 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育にむけての取組の中で、支援を要する生徒にとって、自由が丘3校の情報共有は重要であると思う。今後も密な連携を願う。
<p>家庭・地域との連携 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流がコロナ禍で出来ていないが、各行事において、保護者が参加できるように配慮している。また、通信機器を活用しての情報発信を生徒や保護者のもとより、地域への発信は情報が早期に分かり良かった。 ・ホームページの更新等課題を次年度は達成してほしい。 ・学校行事等地域の方を招いての開催を再開していく方向で検討をお願いする。
<p>教職員の育成 評価は「B」が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を創る学力育成三木モデルの存在を「すぐる」配信をし、保護者への周知を今以上に図ってもらいたい。 ・小中一貫教育を目指した自由が丘3校の情報共有は良い。